

パネルディスカッション4

「胃粘膜下腫瘍の診断・治療の現状と限界」

司会 上堂 文也（大阪国際がんセンター消化管内科）

比企 直樹（北里大学医学部上部消化管外科学）

GISTをはじめとする胃粘膜下腫瘍の治療は外科的胃局所切除（Wedge Resection）、腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除（LECS 関連手技）に加えて、近年内視鏡単独胃局所切除（EFTR）が先進医療として施行可能である。治療法の選択には術前の組織、局在、腫瘍径の正確な診断が重要であるが、胃粘膜下腫瘍においてそれらは時に困難である。患者に最適な治療を選択するための診断法と R0 切除を前提とした安全かつ確実な治療法について、現状と展望をディスカッションしていただきたい。